

平成 20 年 12 月 24 日

各地区／団体長各位

有限責任中間法人
全国ダクト工業団体連合会
会長 須長 義明
関東空調工業会
会長 田村 行雄

国内産業の業況悪化と全ダ連の対応について (東京首都圏における／関空工の実践)

今さら申し上げるまでもなく、米国の金融危機が世界同時不況を招き、一気に国内主要産業の業況悪化という事態を招き、建設業界でも大型工場建設の縮小・中止等の影響が現実のものとなってきました。

当業界もこの数年は、国内景気の回復によりバブル崩壊直後の経営危機から些か脱した感がありましたが、この度の大不況で又してもの下請叩き、安値受注時代への逆戻りが大変に危惧されるところです。

斯かる状況のもと全ダ連は、中核団体である関空工（田村会長）と不況対策について協議、先ずは関空工から率先して実践することで、全国各地にも其の経過を発信することに致しました。

例年、全ダ連の合言葉である「不況に負けない全ダ連」を実現するためには、今以上の経営悪化は何としても避けることが不可欠であります。

不況下における施工の合理化は勿論のことですが、業界不振の最大の原因は永年の安値受注にあることを肝に銘じ、各団体長のリーダーシップにより、この難局を乗り切っていただくよう期待する次第です。

<話し合いの主旨>

- ① 近々に、東京を営業圏とする大手のダクト業者（関空工理事）数社により、ややもすると弱気になる不況下の受注スタンスについて忌憚のない意見交換を行うこと。
- ② 幸いにして、東京周辺の大規模工事は既にゼネコンが着工した物件が殆どで、むしろ今年より来年（ダクト）着工の件数のほうが多いこと。
- ③ また、本年夏まで続いた資材の高騰、材料高をまだ契約に転嫁できていない状況下での不況到来であって、今まで以上の安値で受注すれば企業として経営の存続が困難であること。
- ④ 慢性的な若手技能工の参入不足は、一つには賃金の安さにあり、必要な待遇改善のためには、適正な受注価格を堅持する外ないこと。